

大和野菜「味間いも」の振興

要約

平成28年に設立した「田原本町味間いも生産者の会」(10名)を対象に、町と連携して広報誌や県内外でのPR活動を行い、味間いも認知度の向上に努め、新たな販路拡大や栽培面積の拡大を目指した。また優良種いもを安定して確保するために2ヶ所の増殖ほを設け、栽培指導を行った。

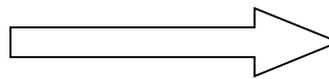
更に、加工品開発にも取り組み、「皮むき真空パック」や「旨煮仕上げ」などの商品化を支援した。

現状(背景)と課題

大和の伝統野菜「味間いも」を地域の特産品としてブランド化を図るためには、生産者及び栽培面積を増やすとともに加工品開発やPR活動により認知度を高める必要がある。

【栽培面積 H28 57a】

【加工品開発 H28 1品】



目標

- ・栽培面積
1ha
- ・加工品
新規1品

実績

- ・栽培面積
57a
- ・加工品
新規 4品

活動内容

- ・生産者への聞き取り調査による栽培・販売の現状把握を行った上で、生産者会議を行った。
- ・福井県などの産地事例や大阪、東京市場におけるニーズの調査を行い、栽培技術改善や、新たな販路に関する提案を行った。
- ・優良種いも増殖ほ及び現地の巡回指導により、生産安定に努めた。
- ・加工品開発及び商品化に向けた指導、商標登録に関する情報提供を行った。

成果

- ・今年度の栽培面積拡大には至らなかったが、市場調査等から今後の販路開拓が見込まれる。
- ・生産者会議では商標登録、PR活動などの意見交換が活発に行われ、味間いものブランドに向けた意識醸成ができた。
- ・新たな加工品として「皮むき真空パック」「旨煮仕上げ」の他、味間いも焼酎「里の香」、イベント商品「いもぼた」を商品化できた。



生産者の会



生産圃場



東京まほろば館等でニーズ調査



まほろばキッチンで販売



産地事例調査（福井県）

普及活動のポイント

- ・生産者会議では、現状把握、生産者との意見交換を通じ、「新たな販路開拓」、「認知度の向上」という課題の共通認識に努めた。
- ・田原本町やJAならけん、関係機関等と連携して味間いもの加工品開発、商品化に必要な情報提供を行った。

対象の変化

- ・栽培や出荷規格、販売方法等に関する具体的な提案等を通じ、H30には生産拡大が見込まれる。

対象者からのコメント

- ・県や田原本町など関係機関には、生産振興から加工・販売まで幅広く関わってもらっているので、生産者としてもブランド化に向けてしっかりと力を注いでいきたい。

これからの活動ビジョン

- ・生産者組織の活動を活性化させ、新たな担い手を確保
- ・実需者ニーズに対応できる選果方法や出荷規格の提案
- ・関係機関と連携した販路開拓
- ・ブランド化のための効果的なPR活動支援

活動体制

